

10.

「久しぶりのアメリカで」風来坊 2003.9.7.~9.22.

9月7日から22日まで 2週間あまり家内と二人でアトランタにいる息子を訪ねて アメリカ珍道中。楽しんできました。息子が言うには「よう こんだけ 勝手な旅行く組んできたな・・・」と。そういわれても「家内はアメリカ初めて。また 何度も行く機会もないし、できるだけアメリカ見てこよう」と・・・・ 私たちの希望に息子がアレンジ チョイス すべてOkで 両方組み込んだまったく欲張りの風来坊。

息子の住んでいる「アトランタ」そして「トロント」「サンフランシスコ」を勝手気ままな風来坊 walk。アメリカで一度行きたかったブロードウェイのミュージカル・大リーグの野球・ナッシュビルでカントリーのライブ ツア ご機嫌でした。

ナイアガラの滝・グランドキャニオンのトレイルそしてアトランタのストーン マウンティン・ロックシティ・巨大な鍾乳洞マンモス ケープのトレル。アメリカの大自然の大きさにただ唖然として声なしでした。また、久しぶりにシリコンバレーのインテルも訪ねてきました。

9月11日ニューヨークテロによる破壊の記念日 アメリカの空港には国歌が流れ、いたるところに半旗。胸にはリボン。

空港での厳しすぎるほどの手荷物・身体検査に誰一人文句も言わず行列を作っている姿と重なって 自由な国がひとつにまとまっている強さというか そんな筋の通った姿勢に見入っていました。アメリカの利己的な一面の是非は別にして。



【 「ニューヨーク 国際テロ」が起こった9.11.

この週 アメリカではいたる所で半旗 国歌が流れていました 】

アメリカというと「合理・効率主義で行動力はあるが利己的・即物的な国。伝統のないことが短絡的な行動にでるのではないか・・・」と思ってきましたが、何か考えてきたこととは違った一面を見たような気がしています。

むしろ 日本の方が『「短絡的・形式的で ルール無視」の放任 無責任な社会』にまっしぐらに進んでいるような気がしています。

アメリカの方が

「精神的に豊かなものを追い求め出しているのではないか」

「社会がわかりやすいルールの中にあり、その責任も浸透している」。

まだまだダウントウンではプアーな人達を多く見ましたが、何か日本の冷たい視線とはちがったものを感じました。

日本人がご都合主義で アメリカの物まねしている間にアメリカの方が精神的にも社会全体が強くなっていると感じました。

アメリカの大自然の壮大さに触れるとともに「アメリカの社会が大きく舵を切ったのか・・・」と感じる 2週間のアメリカ旅行でした。

ナンヤカヤ アメリカで見聞きしたこと思い浮かぶまま風来坊的にまとめ、紹介します。

「久しぶりのアメリカ で」風来坊 2003.9.7. ~9.22.

アメリカの大自然の壮大さに触れるとともに 街を歩くと「アメリカの社会が大きく舵を切ったのか・・・」と感じる 2週間のアメリカ旅行でした。

ほんの2週間ばかりですが、日本へ帰ってくるともう浦島太郎 やたらに日本のクレージさが目についています。

「対米追従」「アメリカ的合理主義・効率経営」等と口々に言っている間に国際的には誰からも見放された孤児への道 弱者切捨ての競走社会にまっしぐら。はやく 村社会から脱却して精神的に深い社会への転換を図らないと・・・・・・・・。

「アメリカかぶれ」ではありませんが、「見る」と「聞く」とでは大違い。言葉は分かりませんが、「自分の足で歩くのがイチバンヤ!!」でした。

2003.10.10. 神戸にて

アメリカ旅行の整理の中で

Mutsu Nakanishi

10.1. 「久しぶりのアメリカで」風来坊【1】 2003.9.7. ~9.22.

- 1-1 アメリカの大自然 地の果てまで その雄大さに声もです
- 1-2 アメリカのセキュリティ 【1】 空港で
- 1-3 アメリカのファースト フード そして オープンテラス

1-1. アメリカの大自然 地の果てまで その雄大さに声もです

やっと実現した勝手気ままな風来坊の旅。「アメリカのでっかい自然を満喫したい」期待にたがわずでした。アメリカ西海岸から東海岸のアトランタまで飛行機で約5時間。またアトランタからシカゴまで南から北へ約2時間。

南北が東西よりはるかに短いのは意外でした。でも本当に広い。西部の地球のしわのような山が続く砂漠地帯・コロラド山脈の大渓谷地帯そして南部から中部へ続くアメリカの大穀倉地帯。

旅行中 ずっと晴天にめぐまれ、飛行機からも実感することが出来ました。

アトランタでは 予想もしなかったドデカイ一枚岩の上で360度の地平線。

また 穀倉地帯をまっすぐ北へ ケンタッキーへのハイウェイを突っ切った先には巨大な鍾乳洞「マンモスケーブ」。私たちはほんの2時間ほどの鍾乳洞ツアーだったが、1日入っただけでも端まで行けない大鍾乳洞。インテルの連中が秋芳洞で自慢していたのがこれか・・・やっぱりすごい。

楽しみだったナイアガラの滝壺への船からの見学 太陽の位置によって表情を変える大渓谷グランドキャニオン。飛行機から見た南中部の穀倉地帯とそこを流れるミシシッピの流れ。写真や映像で知ってはいても 今眼前に広がる光景は期待以上。また おとぎの街のようなナイアガラオンザレークの街ですごした午後アメリカの大都会とは違った素晴らしさ。

人によってそれぞれ違った印象でしょうが、私の感じたアメリカの大自然 ちょっぴりですが、写真で・・・・・・・・。

南部から中部へ続くアメリカの大穀倉地帯とそこを流れるミシシッピ河



ミシシッピ河とその周辺の田園地帯





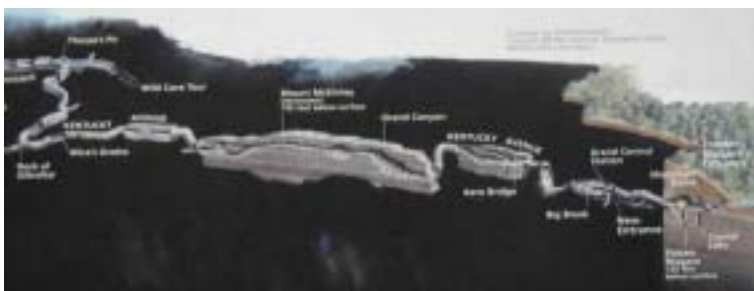
アメリカ南中部の穀倉地帯で アトランタ デンバーの飛行機より
360度 ぐるっと地平線 アトランタ郊外一枚岩の頂上 ストーン マウンティン



ストーン マウンティンとその頂上からの展望
アメリカ人が自慢する大鍾乳洞 マンモスケープ



アトランタからナッシュビル ケンタッキーへ向かうハイウェイ



国立公園 マンモス ケーブ



ナイアガラの滝と美しいおとぎの街ナイアガラオンザレーク



時間によつてその表情を変える大渓谷 グランドキャニオンとコロラド河



まあ やっぱり見ると聞くとは大違い
「足であるかなあかん」が実感。

でも なんで 日本人ツアーは景色みないで、つくや否や土産屋へ走り、さわりだけ見て一枚写真撮って帰っていくのか・・・本当に不思議なぐらい。もつと ゆったり 見ればよいものを・・・・。 旅行社の企画もほとんどそれ・・・・。

そういういえば、日本国内のバスツアーも温泉とみやげ物屋に一目散。アメリカ人まで知っていてそんなツアー企画が多いようだ。

歩いてみると日本人の異常さが見えてくる。日本人の気質でしょうが、おもしろいですね・・・・。自分もどこかで それやっている。 気をつけねば・・・・と。景色の素晴らしさにひたりながら・・・・。



1-2. アメリカのセキュリティ 【1】 空 港 で

空港での手荷物検査厳しいと聞いていましたが、本当に徹底的。靴もバンドもみんなX線かけ



て。ちょっとでも金属探知機がなると個別検査。全身が引っかかりぬまで。私は胸のポケットに入っていた1ダング角ほどの箔で包まれた錠剤が引っかかり、中々見つからず大変でした。



【 アトランタ 】

でも、アメリカ人は本当に良く我慢していると・・・。
息子が言うには搭乗ゲートまで行き着くまで2時間前では大変・・・と。
たかをくくっていましたが、それくらい見ておかないと厳しかったです。

ゲートを先にくぐり、搭乗口に行かねばならず、ゲートを通過して早く搭乗検査を受けないと見通したたずです。これは 国内線でも同じ。したがって、ゆったりと空港内で搭乗間際まで、見送りの人達と会ったり出来なくなりました。

空港が整備され、ビッグになったこともあり、10年ほど前のあの人がごった返して、むんむんしていた空港の中の熱気はまったくなし。

シカゴ・サンフランシスコの空港拍子抜けで、ゲートをくぐって搭乗まで空港内でゆったり。
アメリカ航空業界の不信の深刻さ 見たように思います。
また 今は空港が一番安全かもしれません。



【シカゴ】



【サンフランシスコ】

1-3. アメリカのファースト フード そしてオープンテラス

「マクドナルド」大きさほか寸分変わらぬのにアメリカの方が高いのはなぜ・・・

3ドルから5ドルもする。日本の59円マックがなつかしい。

メキシカンあり、ホットドッグあり それに ワッフル・サンドウィッチ 数々のサラダ 多種多様。

でも、スナックやサンドイッチなどファーストフードは総じて日本より高いがそのボリュームには驚かされる。

日本人にとっては二人分。

食事と一緒にみんな飲んでるあのコーラの大きさも・・・朝からあの大きさである。

でも「シェアするから二つに」というとスープでもサンドイッチでもサラダでも何でも感じよく 2つに分けてくれる。日本ではちょっとと言えないと思えるレストラン所でも分けられるのは楽である。

食事に行って 残れば、「ドギーバッグ」につめてもらって帰るのもごく普通。

家内は初めびっくりしていたが、二人で行くと楽ですね。



アメリカのサンドイッチ 温めてくれるのですが、パンの外皮だけ。

「中途半端やったら暖めるな」といいたいのですが、これが正統派といわれると・・・イヤになります。

また、何であれだけ外のテラスでランチやティーしたがるのか 全く不思議なほど いたるところにオープンテラスの店がある。

カンカン照りの暑い日差しの中でもオープンテラス 夜も店の中 空いているのにオープンテラスが満員。

街を眺めながら食事するのは私も好きですが、暑い日差しの中や人ごみの通りとなると もう ビックリです。

10.2. 「久しぶりのアメリカ で」風来坊【2】 2003.9.7.~9.22.

- 2-1 地下鉄の中で ハンディキャップを守る思いやりと絆
- 2-2 サンフランシスコで「不便を承知で高速道路建設を放棄」したという
- 2-3 アメリカのセキュリティ【2】シリコン バレー インテル博物館で
- 2-4 アメリカで垣間見たインターネット社会
「久しぶりのアメリカで」

2.1. アトランタの地下鉄の中で ハンディキャップを守る思いやりと絆

アトランタは黒人がほぼ半数を占める黒人の多い街。

地下鉄とバスが連動していて バスの駅は地下鉄の駅の中にあり、バスに乗り継ぐ時はただである。もっともバスから地下鉄は乗り継げない。

また 駅名がアメリカらしい。





アトランタの街の中心 five point から東西・南北路線が延びているのですが、ここから南へ一つ目の駅は S1 駅(South One) 西へ七つ目の駅は W7 駅(West Seven)
本当にわかりやすいですね。

アメリカの地下鉄は「汚くて治安が悪い」が代名詞でしたが、アトランタは駅に必ずポリスがいて 車両もきれいで全く不安を感じず、フリーに足として街に行

くのに使いました。オリンピックで大きく変わったのですが、ダウタウンも綺麗ですし、治安もまずまず。

アメリカの好景気の是非は色々あるのですが、やっぱり 長期の好景気がアメリカの街を随分変えたと感じました。

ふりかえてみると アメリカが好景気の熱気で沸いている時にはそんなに感じなかったのですが。。。。



一番感動した出来事がありました。

車椅子で乗り込んでくるハンディキャップの人にも乗客はみんな親切。バス・地下鉄そして街で 自由にでかけるハンディキャップの人達を見かけました。

ダウタウンで片手しか自由が利かない黒人が車椅子を一人で操作して地下鉄に乗り込んできたのですが、乗客の一人がすぐ入り口横に車椅子を固定して横で見守り、降りてゆく人がみんな声掛けて降

りてゆく。本当に自然でビックリ。彼の駅でぎこちなく降りてゆくまでずっとでした。

また、降りるときも ドアが開いて 彼が降りるまで みんな動かず待ってます。

日本ではこんなこと考えられない光景でした。

そういえば、飛行機が駐機場に到着し、ストップするや否や荷物を降ろし、人を掻き分け前へ前へ進んで行くのは 日本人

ほかは みんな 前の人が通路に出てくるのを待って 前から順番に。棚の上の荷物を降ろす手助けもあちこちで。。。。



また 別の時に同じような機会にでっこわし、何でもいいから声掛けようと。。。。。「どうも どうも」といったり 「Good Day」といったり。

本当は「ガンバッテ」とでも言えばよかったのか。。。。でも、にこっと笑って返してくれました。

ダウタウンの怖さばかりが頭にあったので、逆に黒人の人たちのやさしさや絆のつよさに本当にビックリしました。

そんな街の中で失敗もやらかしました。

バス停で一番前で家内と並んでいたのですが、バスがきたので乗り込むと運転手から乗り込むのをとめられ、「降りろ」という。

後ろを見ると後ろの方にハンディキャップの人がいる。みんな その人が乗り込むまで待っている。

彼にきずかなかったとはいえ、感心しました。バス停で みんな注意している。これがルールなのですね。

2-2. サンフランシスコで

「不便を承知で高速道路建設を放棄」したという



サンフランシスコは丘の続く伝統の街並を守るため、街に高速道路が通るのを排除したという。サンフランシスコをひとつの大きな丘とするとこの丘の斜面にビジネス街もダウンタウンもすべてあり、両側が海に突き出た狭い半島の先の狭い丘の群の中輪切りの街路と丘へ登る垂直な街路に古い家並みが立ち並び、70万人が暮らすという。丘の頂点を中心に東西南北にクロスした、ケーブルカーが走り、輪切りの街路を路面電車とトロリーバスが結ぶ。それらの公共交通と車が同じ平面を走る。でも徹底したケーブルカー・路面電車優先 乗降客の歩行優先である。ケーブルはクロスする街路の交差点に止まる。ケーブルが止まるたびに四方の車の流れが止まる。車に乗っている方からすると本当に非効率・スピードも出せないお手上げ状態と思うのですが、サンフランシスコ市民はこの交通システムを選択したという。ビックリです。



外から考えると「効率・効率」のアメリカで、しかも最先端に行く「半導体・情報産業」のひしめくこのサンフランシスコの選択。

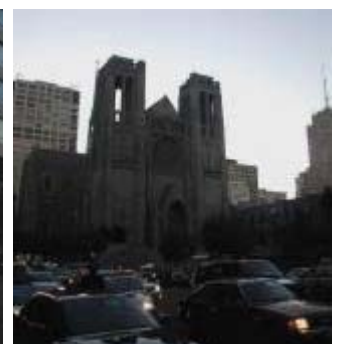
ちょっと意外で、何か新しいアメリカの動きに見えました。

まあ スピードが出ていないので大きな事故はないかもしれないが、ビックリするような大きな音をたてながら、消防車がフルスピードで交差点を通過して行く。

事故が起こらないのが不思議であるが、ルールがしっかり守られているからだろう。

ほかの車が消防車のまねしたらそれこそ事故だらけだと思いますが。

ここでも【サンフランシスコ】ルール破りがいない。不思議でもあり、感心もする。



2.3. アメリカのセキュリティ【2】 シリコン バレー インテル博物館で

久しぶりにシリコンバレーを訪ねるべく、サンフランシスコ カールトレイン駅へ。
ところが 週末は工事のため運休という。きっちり時刻表が作られ 代替バスがサンフランシスコとサンノゼを走っている。別に何ということなく駅も静かなものである。
このカールトレインがサンノゼとサンフランシスコを結ぶ通勤電車と聞いていたので拍子抜け。さすが 車社会である。



【カールとレイン サンノゼ駅で】

高速道路をバスで約1時間 ハイウェイを走ると赤茶けたシリコンバレーの山並みが見えだすとまもなく青のインテル色した建物が左手にみえてくる。

インテル博物館に入ってゆくとセキュリティがストップをかけ、外へ出るという。

表に確かに「手ぶらで 手荷物はすべて車において来い」との注意書き。

「日本からきたので 手荷物を置かせて 何とかしてくれ」と頼み込みましたが、何が何でも道路の向こう側に荷物ほって来いという。

はっと気付きましたが、爆弾自爆防止の措置。何を言っても駄目。

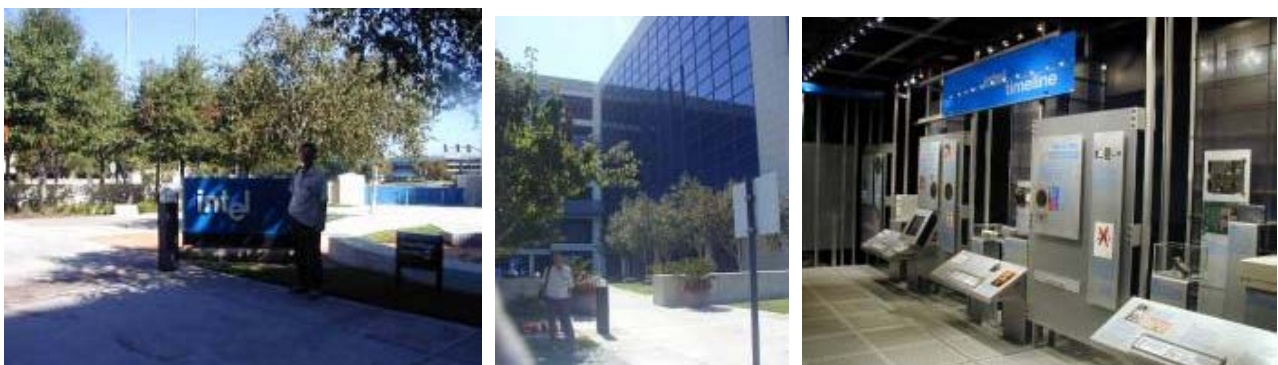
便法なしとセキュリティが全く取り合ってくれなかったのはさすが世界企業インテル。昔仕事していた頃を思い出しました。

インテルの厳しいセキュリティーもここまで来たか・・・と感心すると共にみんな本当に正面から「テロ」と戦っている事知りました。

感心ばかりしてられないのですが、何とか博物館に行ってきました。どうしたかは秘。

さすが、例外を作らぬインテル 世界企業のセキュリティの厳しさとルールを貫き守る姿勢に昔を思い出しました。

感心ばかりしていて 家内には怒られました・・・



【サンタクララ インテル博物館】

2-4. アメリカで垣間見たインターネット社会

大リーグやブロードウェイ ミュージカル・ナッシュビルでのカントリーミュージックの切符-やアトランタのホテルの予約やらすべてインターネットで息子が準備してくれていました。



「インターネットにアクセスして予約。予約結果をプリンターで打ち出してそれを当日持参し、窓口で入場券にひきかえ。席もみんな

決まっている」という。手馴れたものである。代金はクレジットで処理。

予約結果をプリントアウトした紙にはバーコードが付され、それですべて座席まで完了。当日人でごった返す中ほとんど時間もとらず、すぐ入場券に交換。

日本だと何やかや 証明したり、色々・・・だろうに もう 何もなし。ビックリでした。

そういえばクレジットカードはスーパーでも ファーストフードでも街の出店でもごく普通に。

日本でもチケットをインターネットや電話で予約して、ローソンで引き換えすることなど進んでいるのは知っていますが、日常茶飯事的に実にスピーディーに行われているのにはビックリ。また ナッシュビルのカントリーミュージックのコンサート。司会者が繰り返し繰り返し「ダンカン」「ダンカン」と言っている。誰かミュージシャンの名前かと思っていました。何度も聞く中 ふっと気がついて「.com」でした。英語の解らん風来坊 恥ずかしい話です。

そういえば TV もしきりにこの言葉連発しています。

今後は インターネットに携帯電話・クレジットカードが加わって益々便利になる一方 操作できないと全く生活できなくなり、独居老人になること必定。

せつせと 色々チャレンジしていかないと・・・と感じています。

「久しぶりのアメリカ」で

アメリカの大自然の壮大さに触れるとともに 街を歩くと「アメリカの社会が大きく舵を切ったのか・・・」と感じる2週間のアメリカ旅行でした。ほんの2週間ばかりですが、日本へ帰ってくるともう浦島太郎やたらに日本のクレージさが目についています。

「対米追従」「アメリカ的合理主義・効率経営」など口々に言っている間に国際的には誰からも見放された孤児への道 弱者切捨ての競走社会へまっしぐら。

はやく村社会から脱却して精神的に深い社会への転換を図らないと・・・

「対米追従」「アメリカ的合理主義・効率経営」などと口々に言っている間に国際的には誰からも見放された孤児への道 弱者切捨ての競走社会へまっしぐら。

はやく 村社会から脱却して精神的に深い社会への転換を図らないと・・・

ほんの2週間ばかりですが、日本へ帰ってくるともう浦島太郎 やたらに日本のクレージさが目についています。

「アメリカかぶれ」ではありませんが、「見る」と「聞く」とでは大違い。

言葉は分かりませんが、「自分の足で歩くのがイチバンヤ!!」でした。

神戸にて アメリカ旅行の整理の中で

Mutsu Nakanishi